泣いた！笑った！in 開発途上国

好評をいただいていた「研修現場から」に替わり、今号からシニア海外ボランティア参加経験者による体験談を掲載します。
シニア海外ボランティア制度は平成2年から始まり、40歳～69歳までのボランティア676人が、現在49ヶ国で活躍中です。（北海道出身のボランティアは27人が活動中）
今回は1999年10月から2年間、中米の国ホンデュラスの国立森林科学学校にて林業技術を教職員に対して教えていた酒井和彦さんからの体験談です。

シニア海外ボランティア体験記

酒井 和彦 シニア海外ボランティアOB　ホンデュラス国立森林科学学校
1999.10.21～2001.10.20　林業総合コンサルタント

「ドン酒井*！何をするか指示してください」

赴任して1年半ほど過ぎたある土曜日に補習の学生14人を演習林の松林に集めての集材実習で女学生のアレハンドリーナが叫んだので、私も重い腰を上げて叫び返した。

「どうして（同僚の）サルバドール教授もネルソン助手も来ないんだ。あきれたもんだ。よし、みんな3班に分かれて始めろ！バモス　バモス**」。

ところが人力集材班はくたくたに疲れ、牛力班は材が重く進まないし、その一方でトラクター集材班はデータを取るだけで楽でしょうがない。「30分ごとに交代しろ！休みは無しだ！」

次の月曜日、私はありったけの悪い言葉をあらかじめ辞書を引いておいて同僚の教授達に文句を言った。彼らはできの悪い学生と、牛2頭と御者、トラクターとその運転手を教授でもない日本人の私一人にあずけ、どうも魚釣りに行っていたらしいのだ。これこそ国際協力実践での注意事項“組織の歯車になるな”を逆実践してしまった。

自分が欠席した土曜日の作業データをまとめていた教授は謝りもせずに次のように私に尋ねた。「土曜の落第生実習は学校の集材効率の新記録を生み出した。どういった工夫をしたのだ？」

熱帯広葉樹林作業実習の学生たちと

かんかん照りの熱帯で従来2時間交代していたものを、30分交代に変更しただけのことだ。小さいけどこれも技術で、現在もこれが継承されていることを日本に戻った今も願っている。

シニア海外ボランティア派遣の目的は技術移転であるが、実務上「技術の共有」「技術の継承」をすることがとりわけ難しいと実感した2年でした。

帰国して1年半、今は国内NGO北海道森林ボランティア協会の代表幹事としてゆったり森林保全活動を楽しんでいます。日本の森林だって大きな問題を抱えているからです。会員も76名と増加し、地球温暖化防止といった目標の基、海外活動も開始すべく準備中です。

*ドン○○：スペイン語で「ボス、先生、旦那等」の意
**バモス：スペイン語で「さあやろう！」の意

JICA中学生・高校生エッセイコンテスト2003 募集のお知らせ

毎年恒例のエッセイコンテストが9月12日迄募集中です。募集テーマは、開発途上国や国際協力について考えていること。たとえば「私たちの未来と地球」「青年海外協力隊になったら」「開発途上国の人々とのふれあい」「ボランティア活動を経験して」など。副賞として約1週間の海外研修旅行もあります。ふるってご応募ください。募集要項等については各中学校・高校宛連絡していますが、お気軽にJICA-HICSにお尋ねください。過去の優秀作品集の冊子については余部がある場合はお渡しできます。詳細はJICAホームページ
http://www.jica.go.jp/classroom/essay_boshu03.html
でも紹介しています。

2002年のコンテストでは喜ばしいことに北海道から中学生の部で最高賞の「特選」が出ております。特選作、札幌市立西岡北中学校、渡部沙織さんの「ハイエナのレリーフ」は上記ホームページからご覧いただけます。

エッセイコンテスト2002JICA-HICS表彰式
（www.jica.go.jp/branch/hics/h05/hyoushouでも詳細がご覧いただけます。）

国際協力事業団（JICA）北海道国際センター（札幌・帯広）
札幌／〒003-0026　札幌市白石区本通16丁目南4番25号　TEL：011-866-8333　www.jica.go.jp/branch/hics
帯広／〒080-2470　帯広市西20条南6丁目1番地2　TEL：0155-35-1210　www.jica.go.jp/branch/hico